

前藤部・聖原II・湧玉  
清水平・上ノ屋敷遺跡

—— 長野県北佐久郡御代田町内所在遺跡発掘調査報告書 ——

1 9 9 4

長野県御代田町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、長野県北佐久郡御代田町内諸遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査の概要については、巻末の抄録に記してある。
- 3 本報告書作成の作業分担は以下のとおりである。
  - ◎ 遺物復原 伴野有希子
  - ◎ 遺物実測 鳥居 亮
  - ◎ 遺物トレース 鳥居 亮
  - ◎ 遺構トレース 鳥居 亮
  - ◎ 遺構写真 堤 隆
  - ◎ 遺物観察表作成 堤 隆
  - ◎ 版組み 堤 隆
- 4 本書に使用した航空写真は、(株)協同測量社が撮影したものである。
- 5 本書の執筆・編集は、堤 隆が行なった。

## 凡 例

- 1 遺構の名称  
H→ 竪穴住居址 D→ 土坑  
M→ 溝状遺構
- 2 挿図の縮尺  
竪穴住居・掘立柱建物 = 1 : 80  
土坑 = 1 : 40、1 : 80  
溝状遺構 = 1 : 300  
土器 = 1 : 4。 石器 = 1 : 4
- 4 図版の縮尺  
遺構写真の縮尺については統一されていない。
- 5 遺構面積の計測にはプランメーターを用い、3回の計測の平均値を面積として示した。
- 6 土層の色調、遺物胎土の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。

## 目 次

I 前藤部遺跡	1	III 湧玉遺跡	27
1 発掘調査の概要	3	1 発掘調査の概要	29
2 遺跡の環境	5	2 遺跡の環境	29
3 遺構と遺物	5	3 遺構と遺物	29
II 聖原II遺跡	7	IV 清水平遺跡・上ノ屋敷遺跡	33
1 発掘調査の概要	9	1 発掘調査の概要	35
2 遺跡の環境	11	2 清水平遺跡	36
3 遺構と遺物	11	3 上ノ屋敷遺跡	38
4 総括	13		

1

# 前藤部遺跡







第2図 前藤部遺跡航空写真



第3図 前藤部遺跡全体図 (1 : 500)

## 2 遺跡の環境

前藤部遺跡周辺は、佐久平東部でも開発事業の進行した地域であり、それとともなって緊急発掘調査が数多く実施されている。まず、圃場整備事業とともなって調査された奈良・平安時代を中心とする鑄師屋遺跡群（第1図7）、工業団地造成による奈良・平安時代の聖原Ⅰ・Ⅱ遺跡（1・2）、同じく工業団地造成による中世の金井城跡（9）がある。

## 3 遺構と遺物

### （1） T-1号竪穴状遺構

#### 遺構

調査区から検出された遺構は、田切り地形の沢に面したT-1号竪穴状遺構1基のみである。

T-1号竪穴状遺構は円形に近い隅丸方形のプランを有し、南北5.2m・東西5.12m・深さ36cmを測る。底面は平坦で、ピットおよび周溝はもたない。遺物は、底面直上から貝1点が出土したのみである。覆土は4層に分層された。4層とも人為的な埋め土と考えられる。Ⅰ層はロームをブロック状に含む暗褐色土（10YR3/3）、Ⅱ層は黒色土をブロック状に含む黒色土（10YR2/1）、Ⅲ層はロームをブロック状に含む褐色土（10YR4/4）、Ⅳ層は二次堆積ロームの黄褐色土（10YR5/6）である。

#### 遺物

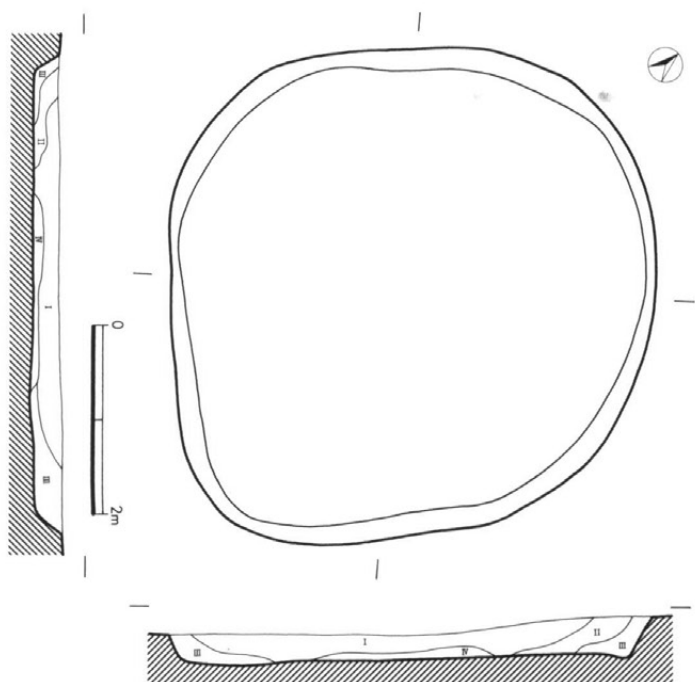
白色化した巻貝が1点出土しているのみである。

#### 時期

時期を決定する根拠となる遺物はな  
いが、おそらく中世に多くみられる竪  
穴状遺構と考えられようか。ちなみに  
こうした竪穴状遺構は鑄師屋遺跡群に  
おいて数多く検出されている。



第4図 T-1号竪穴状遺構調査風景



第5图 T-1号竖穴状遗构实测图 (1:80)



第6图 T-1号竖穴状遗构写真





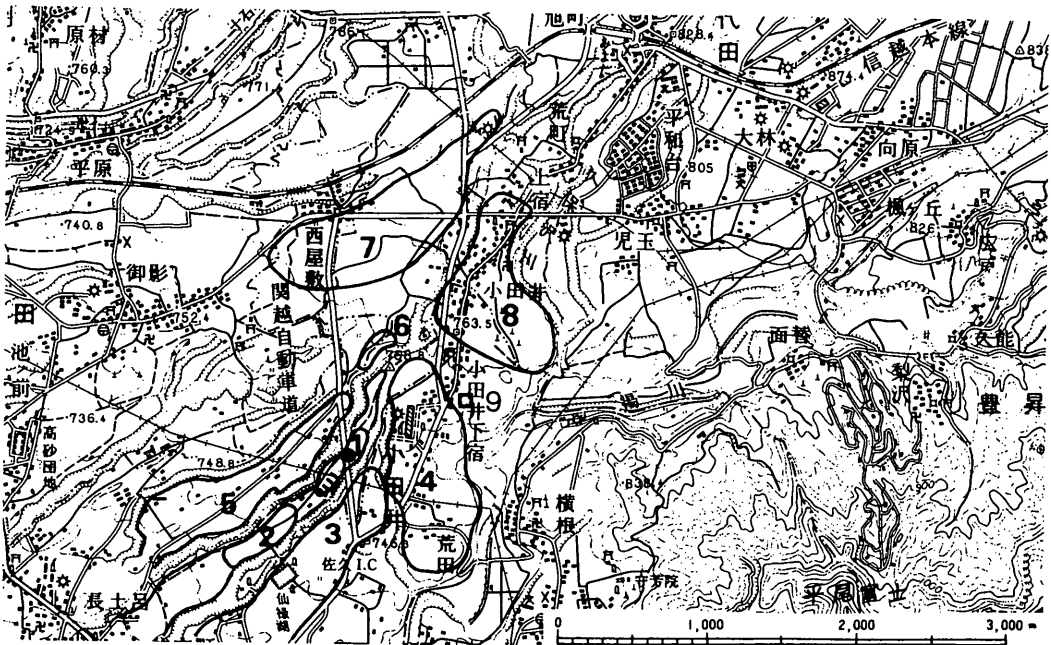
//

聖原//遺跡



# 1 発掘調査の概要

- |         |  |
|---------|--|
| 1 遺跡名   | ひじりはら<br>聖原II遺跡                          |
| 2 所在地   | 長野県北佐久郡御代田町大字御代田字聖原                      |
| 3 発掘期間  | 平成5年7月1日 ～ 平成5年9月16日                     |
| 4 整理期間  | 平成5年9月16日 ～ 平成6年3月30日                    |
| 5 発掘理由  | 工場および事務所建設にかかわる緊急発掘調査                    |
| 6 原因者   | 松本市大字和田5511-10 日産ディーゼル長野販売(株) 代表取締役 平林康雄 |
| 7 調査担当者 | 堤 隆 (御代田町教育委員会)                          |
| 8 調査面積  | 858㎡                                     |
| 9 検出遺構  | 竪穴住居址1軒、掘立柱建物址8棟、土坑1基、溝状遺構1基             |

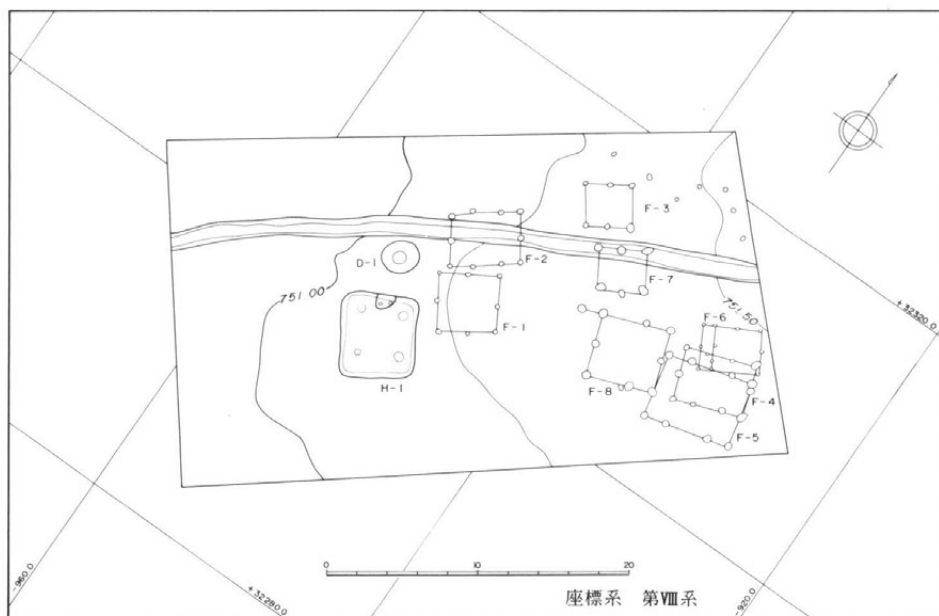


- |           |          |           |           |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1. 聖原II遺跡 | 2. 聖原I遺跡 | 3. 栗毛坂遺跡群 | 4. 跡坂遺跡群  |
| 5. 芝宮遺跡群  | 6. 曾根城遺跡 | 7. 鑄師屋遺跡群 | 8. 中金井遺跡群 |

第1図 聖原II遺跡の調査地点(●)と周辺の遺跡(1:5,000)



第2図 聖原II遺跡の航空写真



第3図 聖原II遺跡全体図 (1 : 500)

## 2 遺跡の環境

聖原遺跡周辺は、佐久平東部でも開発事業の進行した地域であり、それにもなって緊急発掘調査が数多く実施されている。まず、本遺跡の一部はすでに工業団地造成および高速道路建設に大規模な調査が行なわれ、数百軒規模で古墳・奈良・平安時代の集落が検出されている。また、当教育委員会でも事務所建設により、本遺跡の一部の調査を平成元年に実施し、奈良・平安の竪穴住居3軒および掘立柱建物址4棟を検出した。このほか周辺には、圃場整備事業にもなって調査された奈良・平安時代を中心とする鋳師屋遺跡群（第1図7）、工業団地造成による中世の金井城跡（9）がある。

## 3 遺構と遺物

### （1） H-1号住居址

住居址 第4～8図

H-1号住居址は、調査区中央において検出された。

本址は、南北5.68m 東西5.04m の隅丸方形を呈し、床面積22.2㎡を測り、南北軸方向はN-17°-Eを指す。壁高は、40～50cmを測る。壁溝は住居を全周する。床面は、黒色土とロームが混じる暗褐色土層（10YR 3/4）を用いた貼り床である。

ピットは、4本の主柱穴が検出されている。P1は70×70cmで深さ50cm、P2は50×50cmで深さ40cm、P3は64×42cmで深さ45cm、P4は75×60cmで深さ50cm、を測る。

覆土は、6層（I～VI）、ピット覆土は2層（VII・VIII）に分層された。基本的にはいずれも人為的な埋土と考えられる。

遺物はP2の南から2の砥石が床面より7cm浮いて出土している。

カマド 第7図

カマドは、住居址の北壁中央に存在している。おそらく石組カマドと考えられる（プラン中の対のピットは石組の抜き取り痕と考えられる）が、その大半は破壊を被っている。構築土は白色粘土？（II・III層）を主体とするもので、西側の袖はロームの削り出しののちII層が貼られ構築されている。

遺物 第9図

遺物は、須恵器では甕・瓶・坏、土師器では坏・甕、石器では砥石・編物石などが出土しているが、その量はきわめて少ない。1はくの字状口縁のいわゆる武蔵甕である。2は砂岩の砥石、3は編物石と考えられる。

### 時期

本住居址は、1はくの字状口縁の甕の形態から8世紀前半に位置付けられよう。

## (2) F-1～F-8号掘立柱建物址

掘立柱建物址は8棟が検出されている。柱穴が小さいF-6は中世の可能性が残るが、それ以外は奈良平安時代のもと考えられる。その中には、H-1号住居址とセットになって集落を構成したものもあるだろう。

### 1 F-1号掘立柱建物址 第10図

方形の2間×2間の掘立柱建物址で、4×4mを測る。

### 2 F-2号掘立柱建物址 第11図

矩形の2間×3間の掘立柱建物址で、4.7×3.3mを測る。M-1号溝状遺構と重複するが、両者の新旧関係は不明。

### 3 F-3号掘立柱建物址 第12図

方形の1間×2間の掘立柱建物址で、2.8×3.0mを測る。

### 4 F-4号掘立柱建物址 第13図

矩形の2間×3間の掘立柱建物址で、4.8×3.6mを測る。F-5号掘立柱建物址と重複し、本址はF-5よりは新しい。

### 5 F-5号掘立柱建物址 第14図

矩形の2間×3間の掘立柱建物址で、6.0×4.3mを測る。F-4号掘立柱建物址と重複し、本址はF-4よりは古い。

### 6 F-6号掘立柱建物址 第15図

方形の2間×2間の掘立柱建物址で、3×3mを測る。その西側にはいわゆる廂が付く。他の掘立柱建物址に比べるとそのピットは小形である。F-5号掘立柱建物址と重複し、本址はF-5よりは新しい。

### 7 F-7号掘立柱建物址 第16図

方形の1間×2間の掘立柱建物址で、3×3mを測る。M-1号溝状遺構と重複するが、両者の新旧関係は不明。

### 8 F-8号掘立柱建物址 第17図

方形の2間×2間の掘立柱建物址で、南列のみ変則的にピットが4個となる。4.5×4.3mを測る。

### (3) D-1号土坑 第18図

D-1号土坑は、2.5×2.3m深さ1.7mを測り、平面は円形、断面は台形を呈する。覆土は8層に分層され、ロームおよびロームと黒色土が相互に堆積した人為的な埋土である。土坑内からは奈良平安時代の甕の破片が出土しており、奈良平安時代の所産と考えられる。

### (4) M-1号溝状遺構 第19図

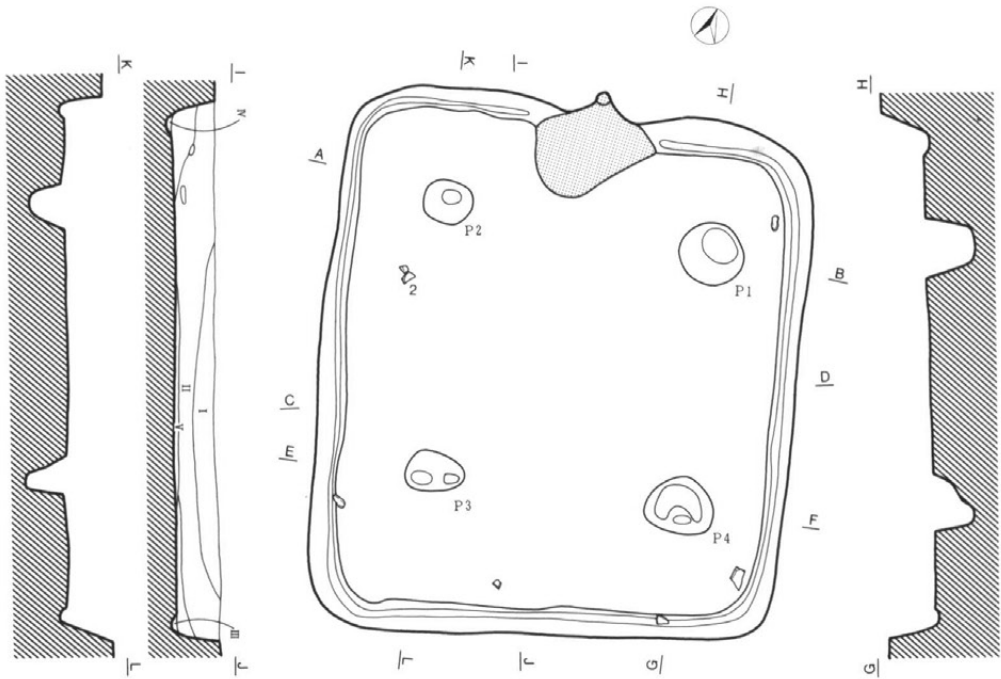
調査区を東西に走る幅1.2~1.5m前後の溝状遺構で、F-2・7号掘立柱建物址と重複するが、両者の新旧関係は不明。遺物は須恵器蓋(3・4)と須恵器坏が出土している。

## 4 総括

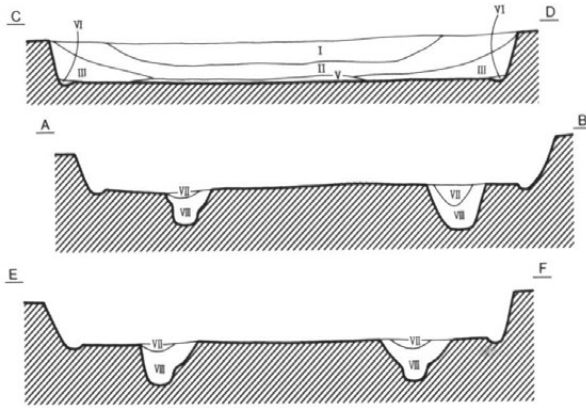
本遺跡から検出された遺構は、竪穴住居址1軒、掘立柱建物址8棟、土坑1基、溝状遺構1基で、奈良平安時代が主体と考えられるものであった。ところで本遺跡の台地の西には、当該期の竪穴住居数百軒あまりが検出された聖原I遺跡がある。おそらく当該期の集落の中心は、この部分と想定され、当遺跡は遺構密度から考えてその端部にあたると考えられる。そうした集落の中心部分の調査成果が明らかにされた時点で、改めて本遺跡の位置付けを考えなければなるまい。

### 引用参考文献

御代田町教育委員会 1990 『聖原II遺跡』



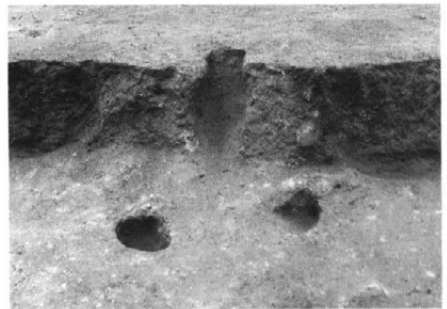
- I 黒褐色 10YR2/2  
ロームと黒色土をブロック状に  
含む埋土
- II 暗褐色 10YR3/3  
ロームをブロック状に含む埋土
- III 褐色 10YR4/4  
ローム粒子を含む埋土
- IV 黒色 10YR2/1  
ローム粒子を含まない
- V 黒色 10YR2/1  
ローム粒子を含まない砂質層
- VI 黒色 10YR2/1  
ローム粒子を含まない
- VII 黒色 10YR2/1  
ロームをブロック状に含む埋土
- VIII 褐色 10YR4/4  
若干黒色粒子を含む埋土



第4図 H-1号住居址 (1 : 80)

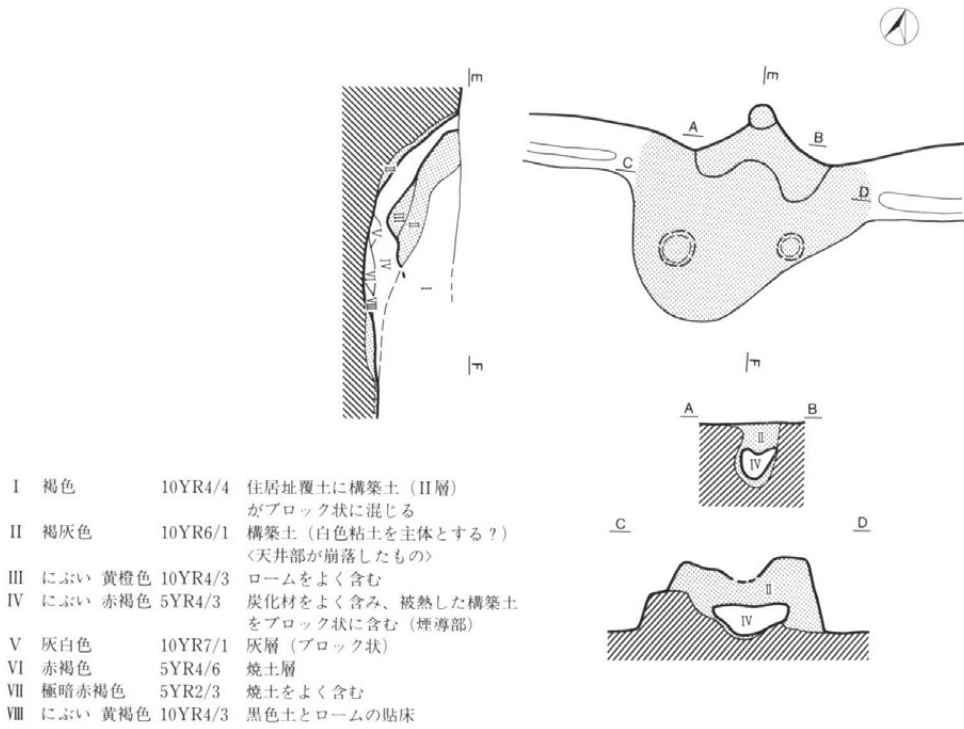


第5図 H-1 カマド



第6図 H-1 カマド掘り方





第7図 H-1号住居址カマド（1：40）



第8図 H-1号住居址

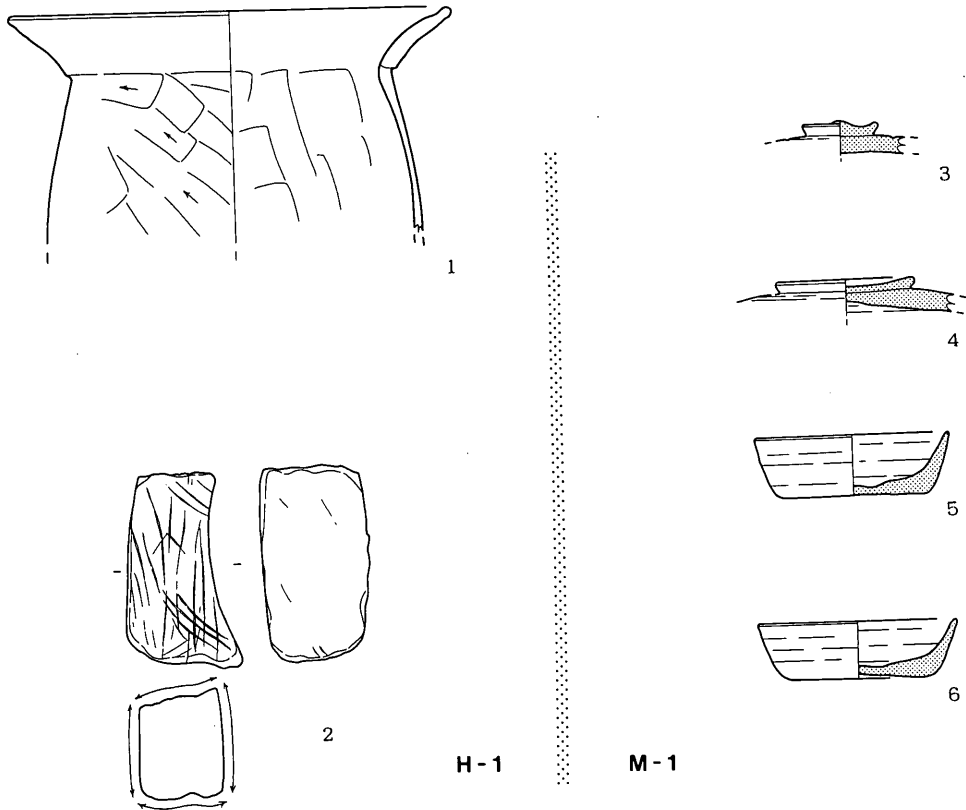
第1表 聖原II遺跡出土遺物一覧表〈土器〉

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	調整	備考
1 (回)	甕 (土)	(23.4) — —	くの字状口縁 最大径は口縁部	口縁部ヨコナデ 外面胴部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胎土はにぶい赤褐色 (5YR5/4) H-1号住居出土
3 (回)	蓋 (須)	3.9 — —	つまみ部は宝珠形	ロクロヨコナデ	胎土は灰色 (5Y5/1) M-1号溝状遺構出土
4 (回)	蓋 (須)	7.3 — —	つまみ部は皿形	ロクロヨコナデ	胎土は灰色 (5Y5/1) M-1号溝状遺構出土
5 (回)	坏 (須)	(10.3) 3.2 (8.0)	盤状の器形 底部平底	内外面ロクロヨコナデ 底部回転ヘラキリ	胎土は灰色 (5Y5/1) M-1号溝状遺構出土
6 (回)	坏 (須)	(10.5) 3.0 (7.2)	盤状の器形 底部平底	内外面ロクロヨコナデ 底部回転ヘラキリ	胎土は灰色 (5Y5/1) M-1号溝状遺構出土

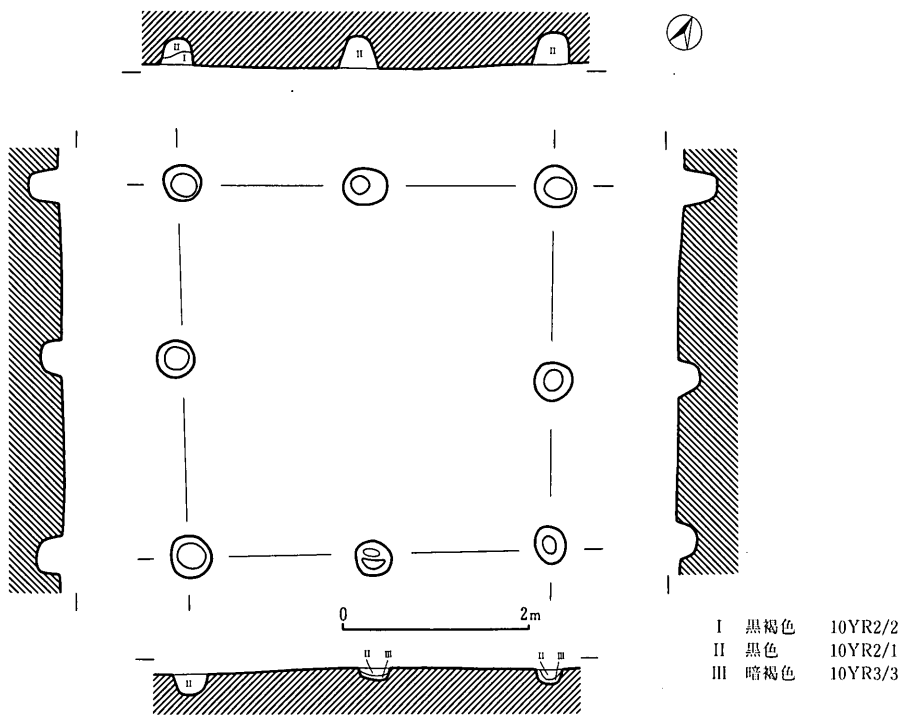
第2表 H-1号住居址出土遺物一覧表〈石器〉

挿図番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
2	砥石	砂岩	10.2	6.2	5.8	480	

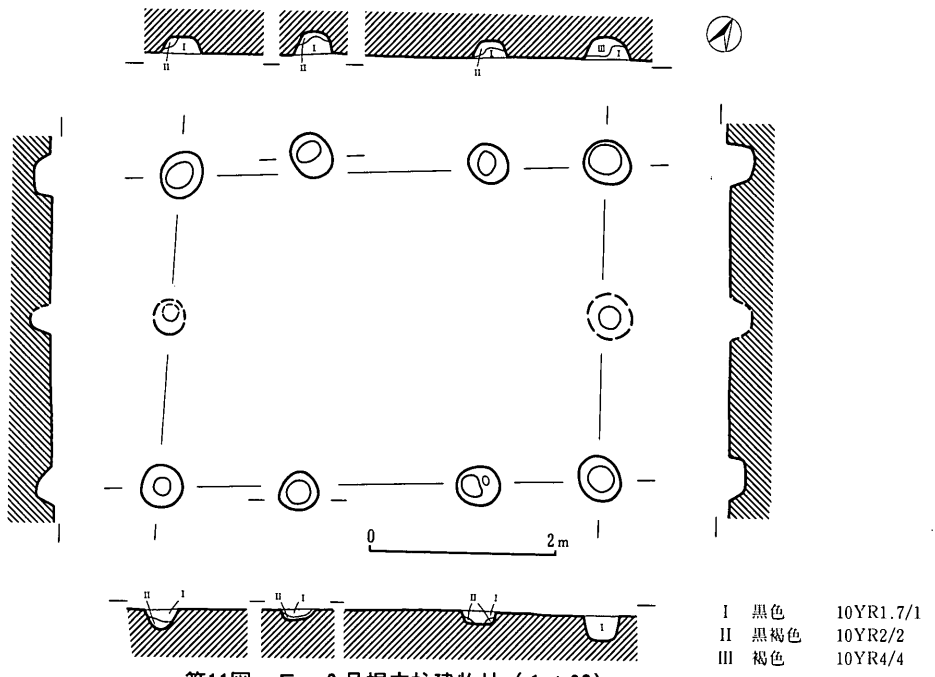
単位はcm, g



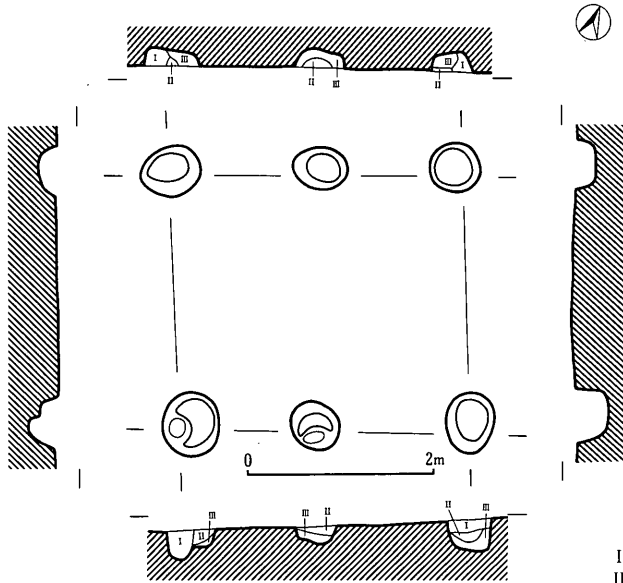
第9図 聖原II遺跡出土遺物 (1:4)



第10图 F-1号掘立柱建物址 (1:80)

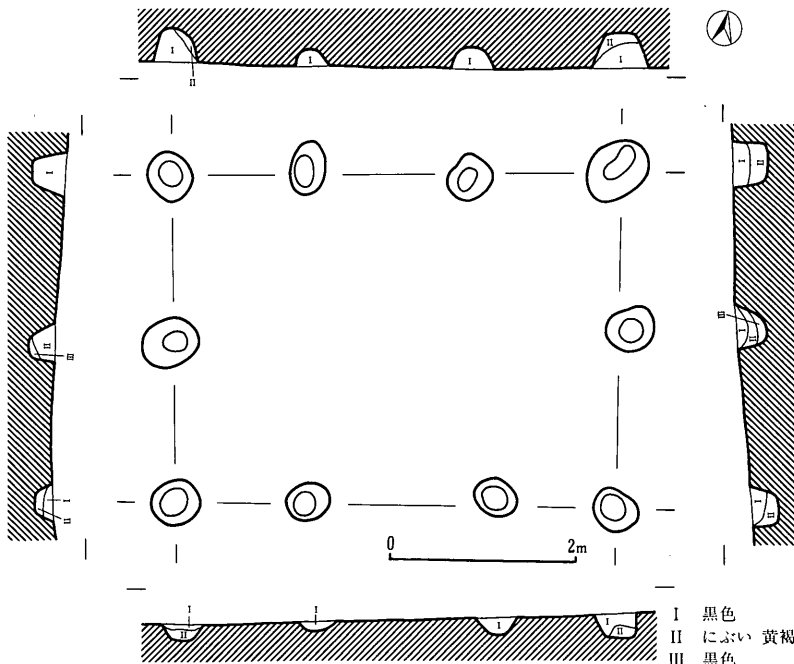


第11图 F-2号掘立柱建物址 (1:80)



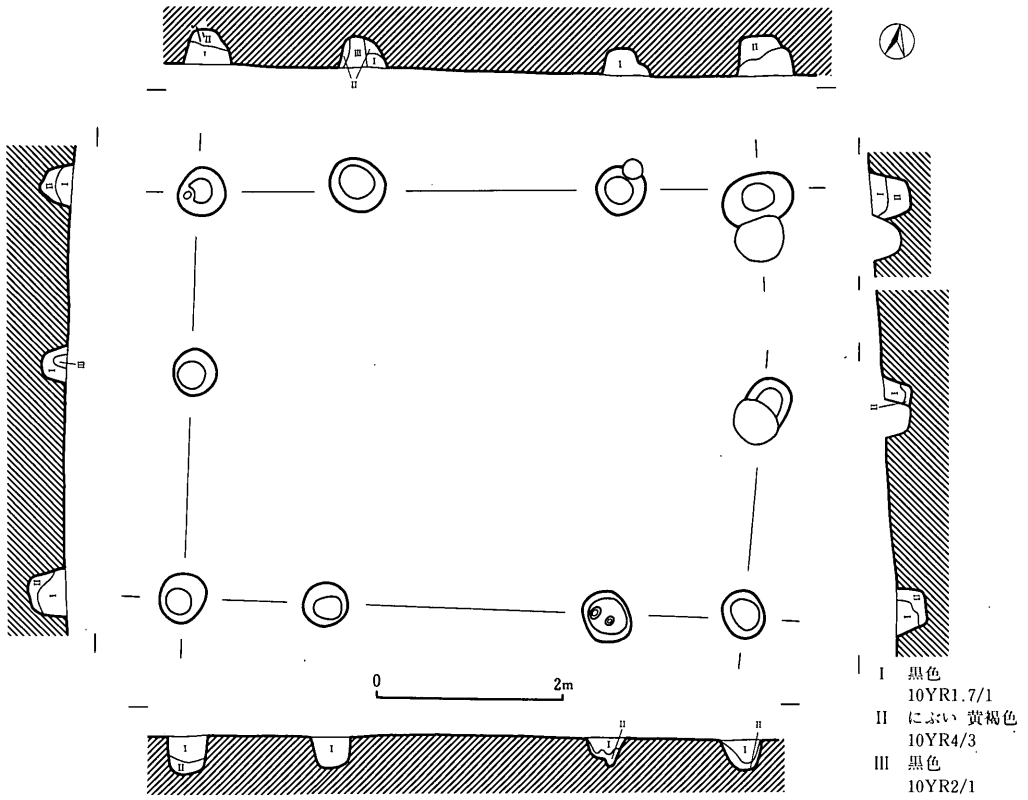
第12图 F-3号掘立柱建物址 (1:80)

- |     |     |           |    |
|-----|-----|-----------|----|
| I   | 黑褐色 | 10YR2/2   | 柱痕 |
| II  | 黑色  | 10YR1.7/1 |    |
| III | 褐色  | 10YR4/6   |    |

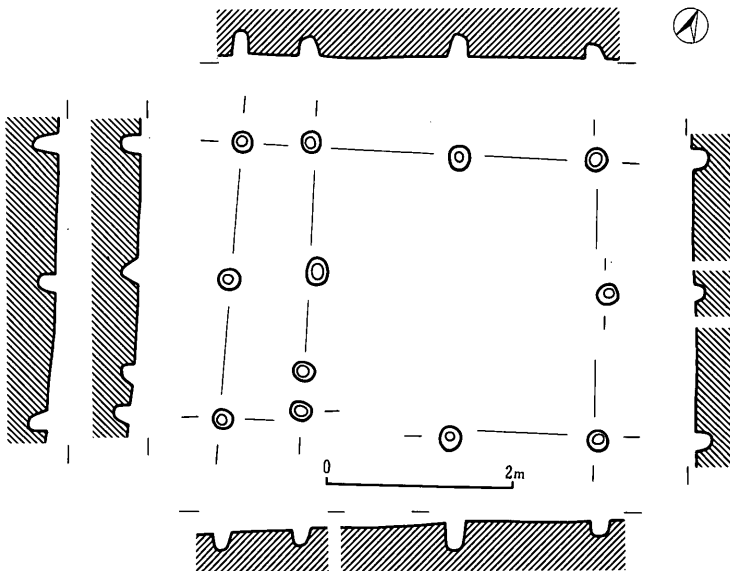


第13图 F-4号掘立柱建物址 (1:80)

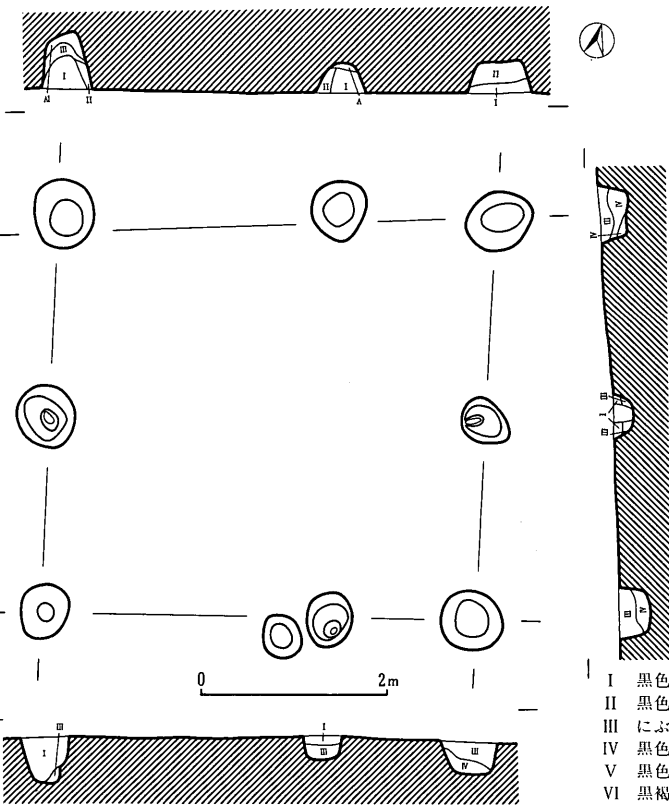
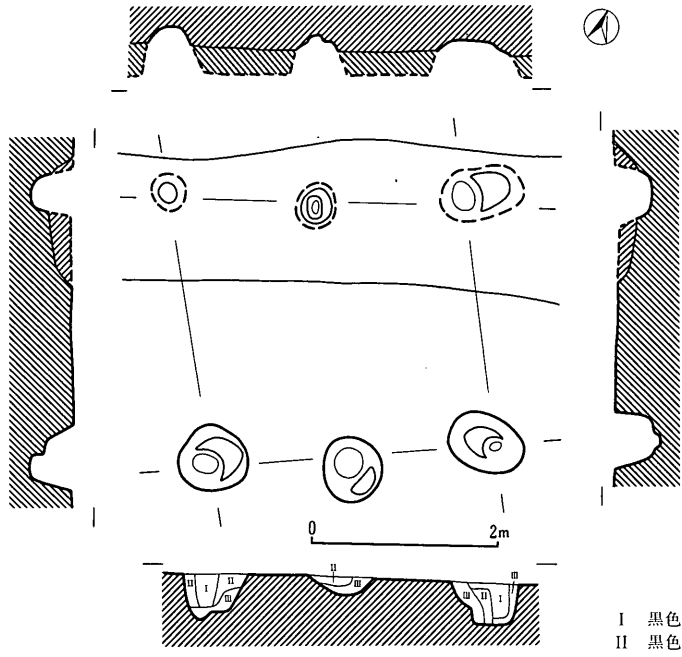
- |     |         |           |  |
|-----|---------|-----------|--|
| I   | 黑色      | 10YR2/1   |  |
| II  | にぶい 黄褐色 | 10YR4/3   |  |
| III | 黑色      | 10YR1.7/1 |  |

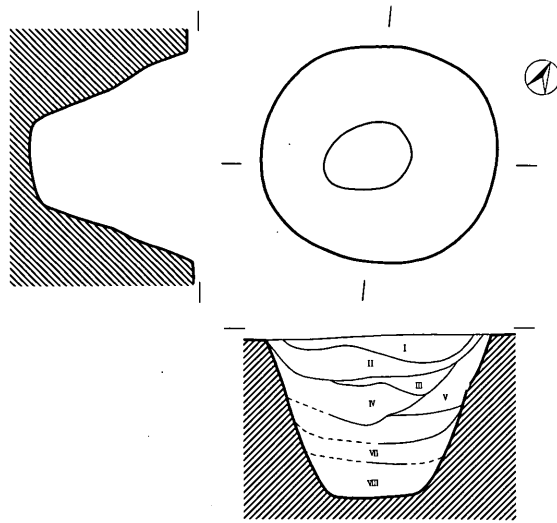


第14図 F-5号掘立柱建物址 (1 : 80)



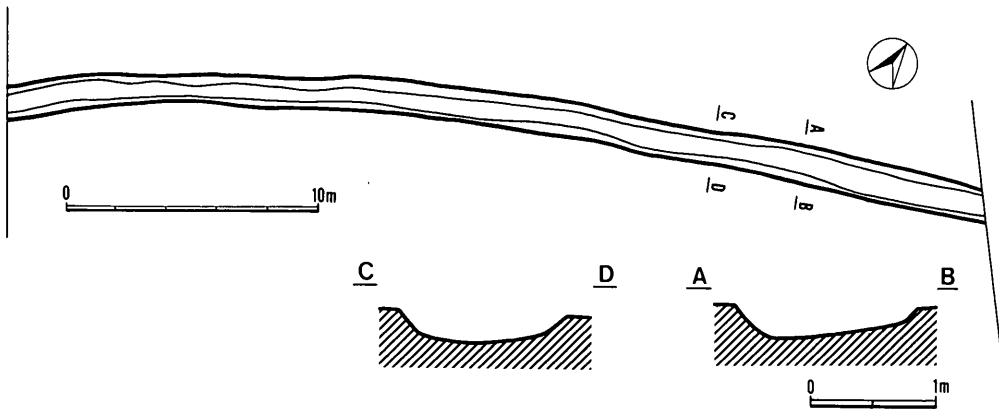
第15図 F-6号掘立柱建物址 (1 : 80)





I	黒色	10YR2/1	黒色土にロームをブロック状に含む埋土
II	黒褐色	5YR2/1	ロームと黒色土が混ざる埋土
III	黒色	10YR2/1	黒色土にロームをブロック状に含む埋土
IV	にぶい 赤褐色	5YR4/4	ローム主体、黒色土をブロック状に含む埋土
V	黒色	10YR2/1	黒色土にロームをブロック状に含む埋土
VI	黒褐色	5YR2/1	ロームと黒色土が混ざる埋土
VII	にぶい 赤褐色	5YR4/4	ローム主体、黒色土をブロック状に含む埋土
VIII	黒褐色	5YR2/1	ロームと黒色土が混ざる埋土

第18図 D-1号土坑実測図 (1:80)



第19図 M-1号溝状遺構実測図 (1:300)

第20图 F-1号掘立柱建物址



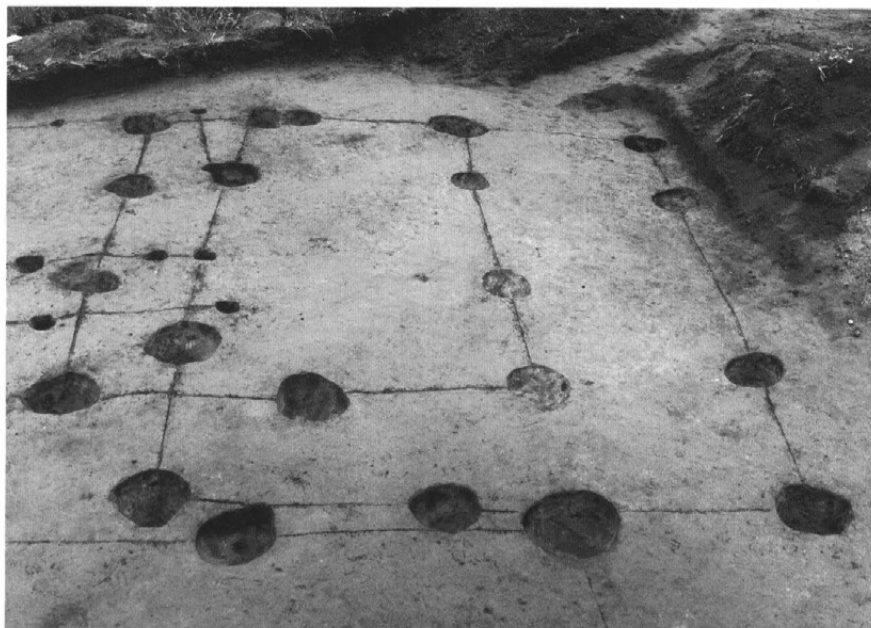
第21图 F-2号掘立柱建物址



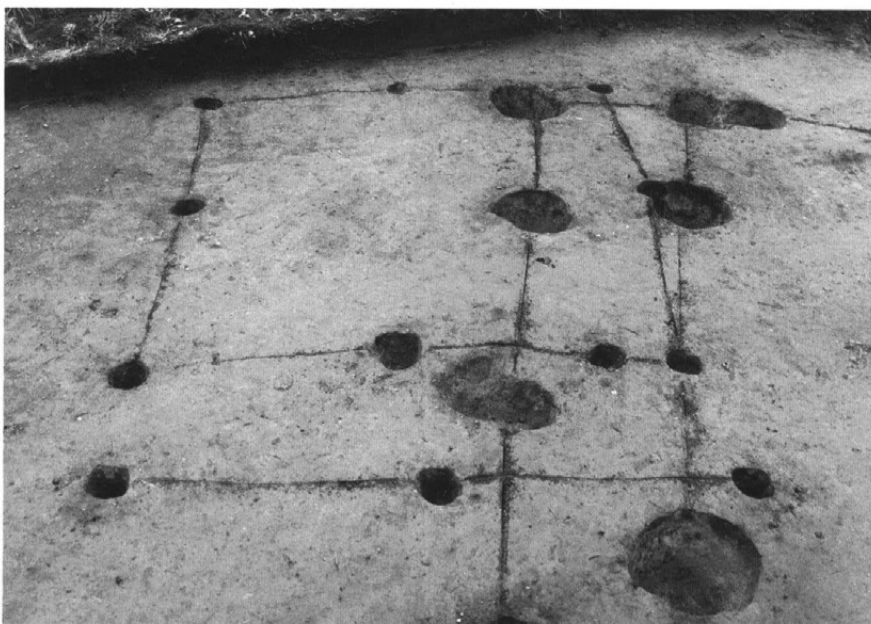
第22图 F-3号掘立柱建物址







第23図  
F-4(左) F-5(右)号掘立柱建物址

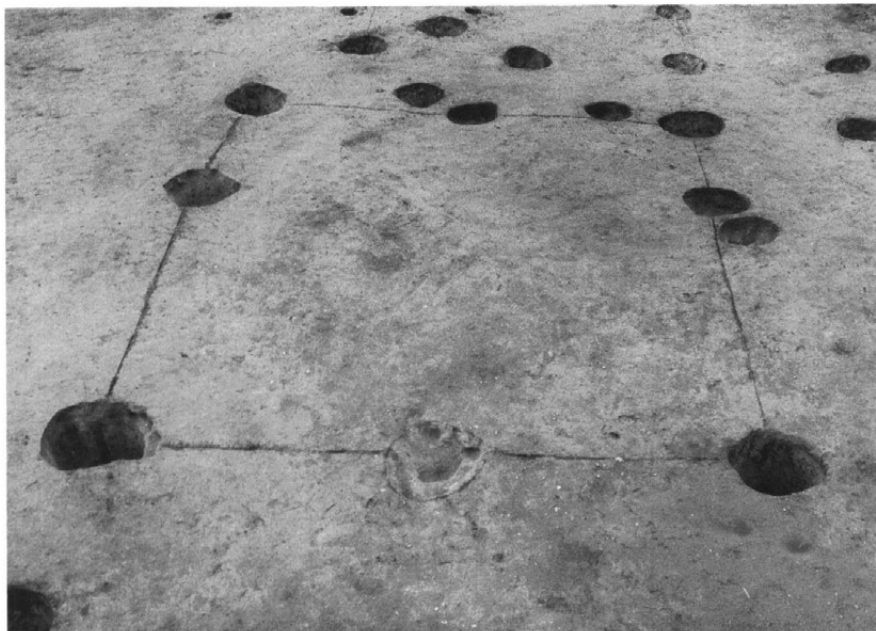


第24図  
F-6号掘立柱建物址



第25図  
F-7号掘立柱建物址

第26図  
F-8号掘立柱建物址



第27図  
D-1号土坑



第28図  
H-1・F-1・F-2





第29図  
M-1号溝状遺構



第30図  
M-1号溝状遺構



第31図  
H-1調査風景



///

湧玉遺跡



# 1 発掘調査の概要

- 1 遺跡名 わくだま  
湧玉遺跡（2次調査）
- 2 所在地 長野県北佐久郡御代田町大字塩野字湧玉
- 3 発掘期間 平成5年7月12日 ～ 平成5年7月14日
- 4 整理期間 平成6年2月10日 ～ 平成6年3月30日
- 5 発掘理由 町道拡幅にかかわる緊急発掘調査
- 6 原因者 御代田町
- 7 調査担当者 堤 隆（御代田町教育委員会）
- 8 調査面積 727m<sup>2</sup>
- 9 検出遺構 土坑1基、溝状遺構1基

## 2 遺跡の環境

湧玉遺跡の一部は本遺跡の北側が、広域農道浅間サンライン建設に伴って1991年に緊急発掘調査が実施され、土坑6基・溝状遺構3基が検出されている。湧玉地籍はその名が示すように豊富な湧水地点を抱えておりその周囲に縄文中期・後期の集落が発達する。以前の調査地点や今回の調査によって検出された土坑は、そうした環境を背景に残された縄文時代の遺構と考えられる。



## 3 遺構と遺物

### (1) D-1号土坑 第4・5図

D-1号土坑は円形プランとその張出部に

ピットを有するものである。260×260cmで 第1図 湧玉遺跡の調査地点 (■)と旧調査地点 (□)



第2図 湧玉遺跡2次調査航空写真



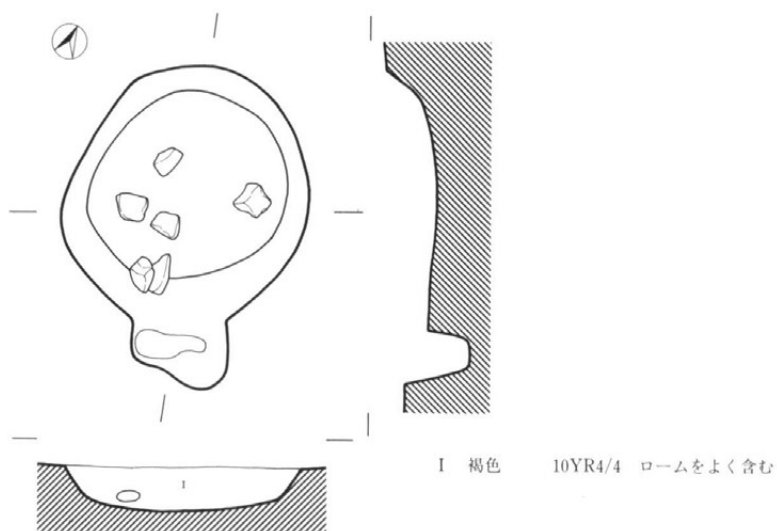
第3図 湧玉遺跡2次調査全体図(1:500)



深さ45cm、ピットの深さは70cmを測る。内部には礫6個が認められたが、遺物は出土していないが、おそらく縄文時代の遺構と考えられる。

## (2) M-1号溝状遺構 第3図

調査区を東西に走る自然流路。内部には大量の礫がみられる。幅1.3m前後



第4図 D-1号土坑 (1:80)



第5図 D-1号土坑



第6図 M-1号溝状遺構調査風景



第7図 M-1号溝状遺構

**IV**

**清水平遺跡**

**上ノ屋敷遺跡**





## 2 清水平遺跡

清水平遺跡は湯川に臨む平坦な河岸段丘上に位置し標高840mを測る。

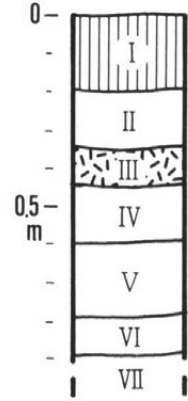
湯川の1km下流には、縄文中期・後期の宮平遺跡がある。

調査は、本地区の造成が盛土工法をとるため遺構の確認を中心におこない、南北にトレンチを設定した(第3図)。結果図の○部分において土坑が確認され、D-1(第3図の■)のみ調査をおこなった。

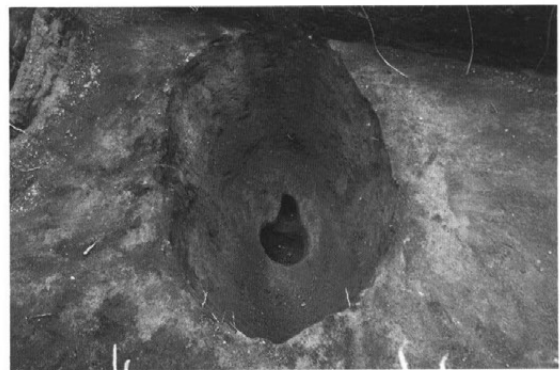
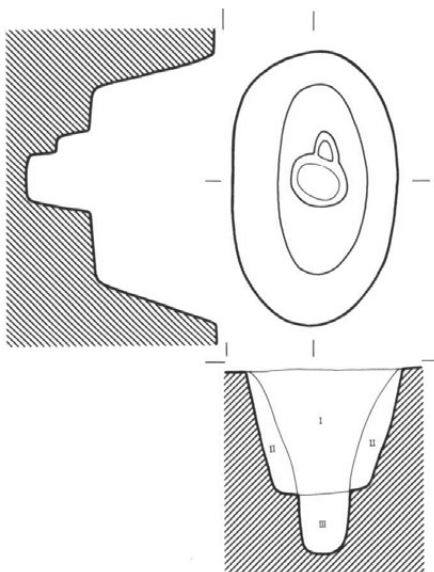
基本層序(第4図)は、I層が黒褐色土(10YR3/2)、II層が約20cmの浅間B軽石層(AD1108、10YR6/8 明黄褐色)、III層がパミスをよく含む黒色土(10YR1.7/1)、IV層黒褐色漸移層黒褐色土(10YR3/2)、V層はふい黄褐色ローム層(10YR5/4)である。

検出されたD-1号土坑は、1.4×0.9深さ0.68mを測るいわゆる陥し穴で、底面には径30深さcmのピット1個が認められた。覆土は3層に分層され、I層が黒色土(10YR1.7/1)、II層がロームをブロック状に含む黒褐色土(10YR3/2)、III層が砂を含む灰黄褐色土(10YR6/2)であった。出土遺物はなし。

なお、本地区の再造成等については、保存遺構の再調査が必要である。

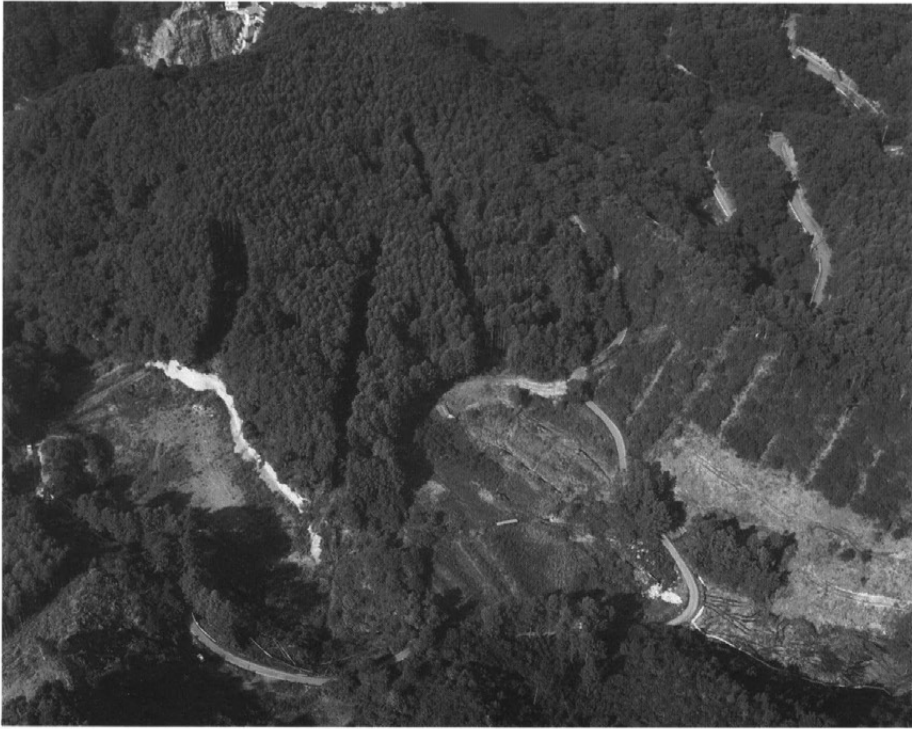


第4図 層序

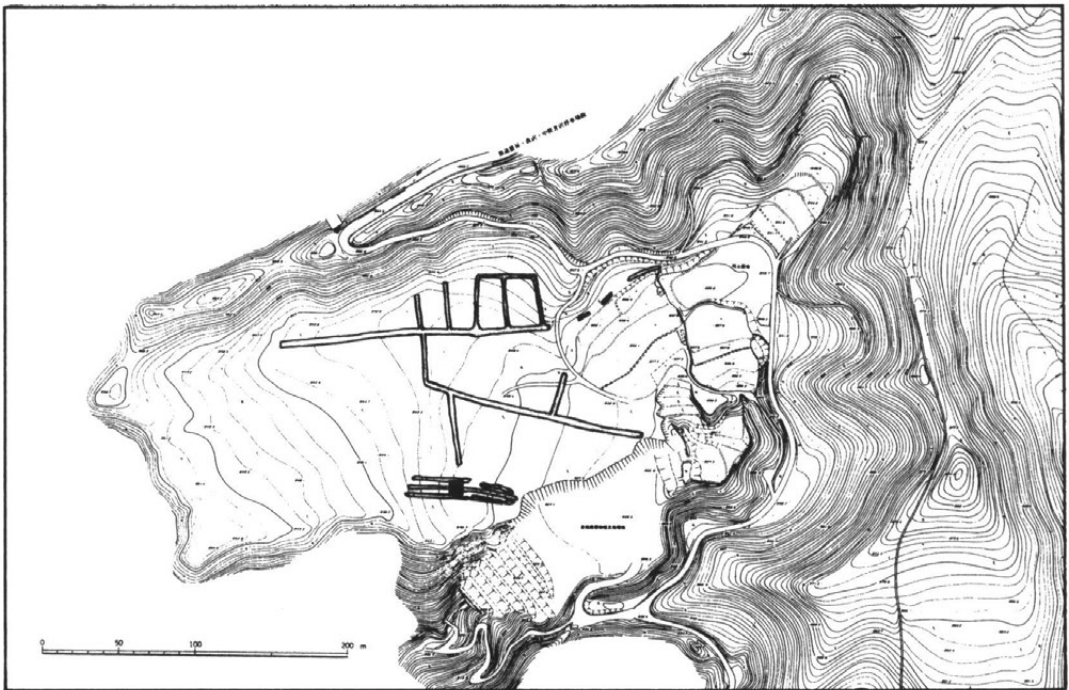


- |     |      |           |              |
|-----|------|-----------|--------------|
| I   | 黒色   | 10YR1.7/1 | ロームを含まない     |
| II  | 黒褐色  | 10YR3/2   | ロームをブロック状に含む |
| III | 黄灰褐色 | 10YR4/2   | 砂層を含む        |

第5図 清水平D-1号土坑(1:40)



第2図 上空よりみた清水平遺跡



第3図 清水平遺跡試掘トレンチ (1 : 5000) ■はD-1の位置

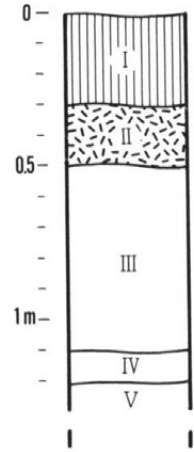
### 3 上ノ屋敷遺跡

調査は、遺跡部分の造成が盛土工法をとるため遺構の確認を中心におこない、何本かトレンチを設定した(第9図)。結果I区の1・2部分において確認されたD-1・D-2号土坑のみの調査をおこなった。

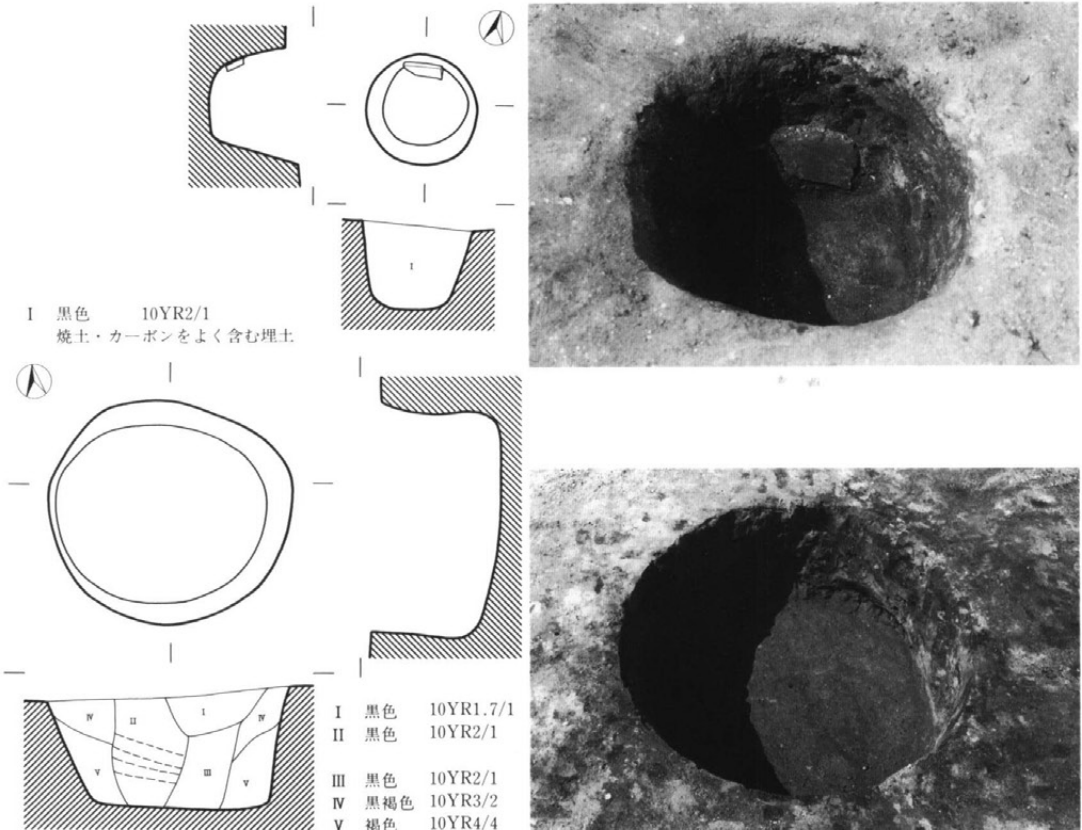
基本層序(第4図)は、I層が暗褐色土(10YR3/3)、II層が黒褐色土(10YR3/2)、III層が約10cmの浅間B軽石層(AD1108、10YR6/8 明黄褐色)、IV層が黒色土(10YR1.7/1)、V層が黒褐色土(10YR3/2)、VI層が褐色漸移層(10YR4/4)、VII層はにぶい黄褐色ローム層(10YR5/4)である。

D-1号土坑は、径60cm45cmの円形で、底部には鉄平石がある。覆土は人為埋土でI層のみ。

D-2号土坑は、130×120 深さ70cmの円形で袋状の土坑である。覆土は5層からなる。



第6図 層序

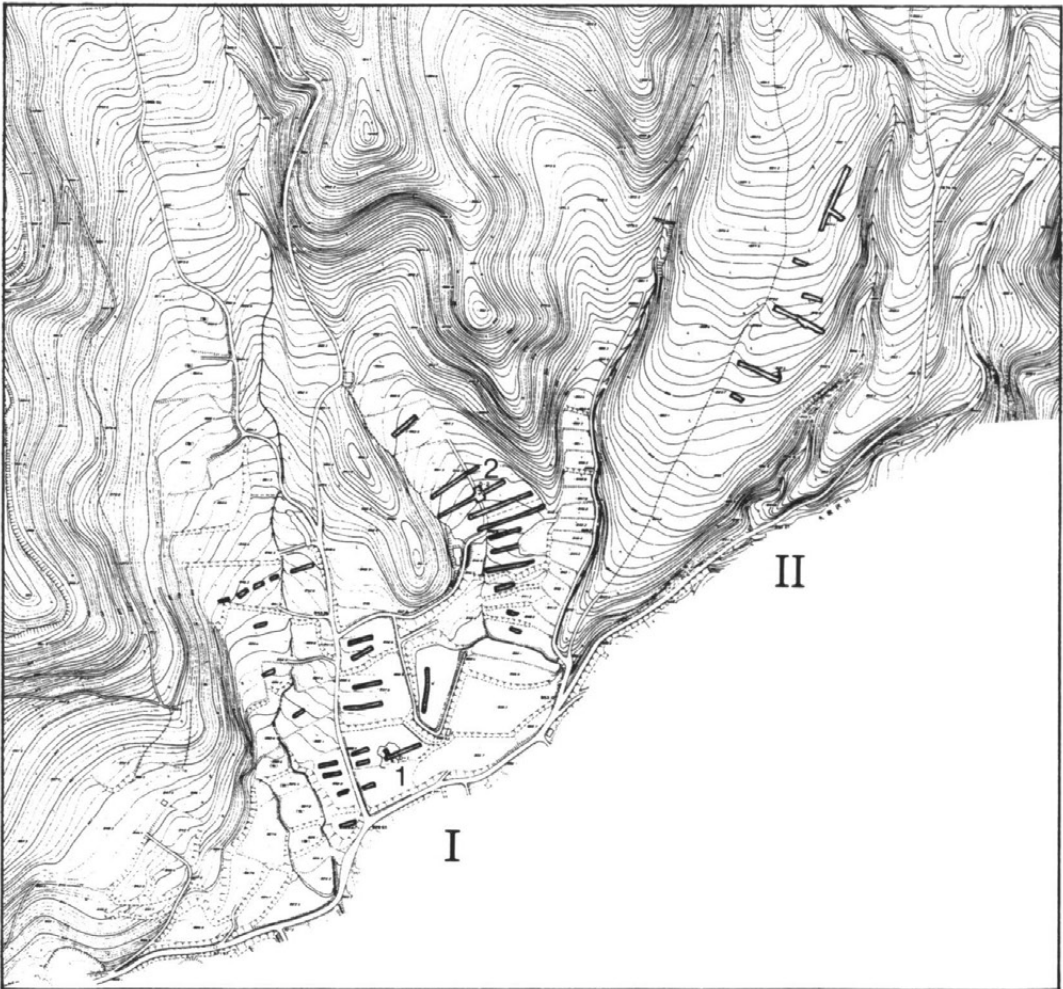


第7図 上ノ屋敷遺跡D-1(上)・D-2(F)(1:40)





第8図 上ノ屋敷遺跡の遠景



第9図 上ノ屋敷遺跡I区・II区試掘トレンチ (1 : 5000) 1 = D-1 2 = D-2

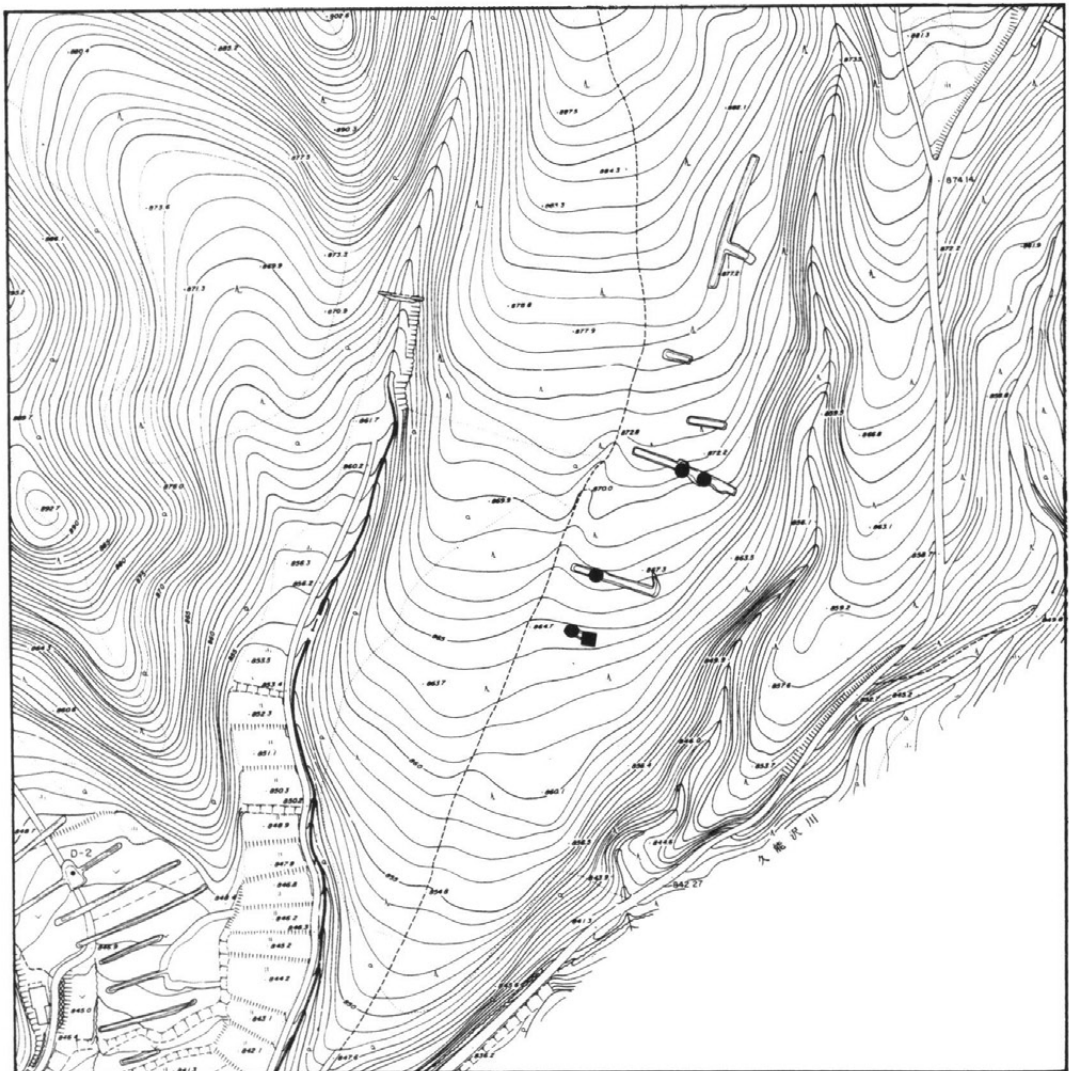
II区は平坦な尾根上の調査区で、土坑（4基）・住居（1軒）が確認された。

本区の造成は盛土工法をとるため、これらの遺構の掘り下げはおこなわず、その存在を確認するのみにとどめた。

本地区で再造成を実施する場合には、これらの遺構についての再調査が必要となる。



第10図 試掘トレンチの設定



第11図 上ノ屋敷II区で確認された住居（■）と土坑（●）

## 報告書抄録

ふりがな	まえとうぶ ひじりはらに しみずだいら かみのやしき わくだまいせき							
書名	前藤部・聖原Ⅱ・清水平・上ノ屋敷・湧玉遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第 19 集							
編著者名	堤 隆							
編集機関	御代田町教育委員会							
所在地	〒 389-02 長野県北佐久郡御代田町大字御代田2464-2 TEL 0267 (32) 3111							
発行年月日	1994 年 3 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 〃 〃	東 経 〃 〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえとうぶ 前藤部	おおあぎみよた 大字御代田	1323	—	36°17'19"	138°29'20"	93年7月1日 ┆ 93年9月16日	573㎡	倉庫建設の 事前調査
ひじりはら 聖原Ⅱ	おおあぎみよた 大字御代田	1323	—	36°17'28"	138°29'22"	93年7月1日 ┆ 93年9月16日	858㎡	工場建設の 事前調査
わくだま 湧玉	おおあぎしおの 大字塩野	1323	—	36°20' 3	138°30'22"	93年7月12日 ┆ 93年7月14日	727㎡	道路拡幅 の事前調査
しみずだいら 清水平	おおあぎほうしょう 大字豊昇	1323	—	36°18'11"	138°32'50"	92年4月1日 ┆ 93年3月30日	30000㎡	ゴルフ場造成 の事前調査
かみのやしき 上ノ屋敷	おおあぎほうしょう 大字豊昇	1323	—	36°17'32"	138°32'54"	92年4月1日 ┆ 93年3月30日	50000㎡	〃
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
まえとうぶ 前藤部		中世?	竪穴状遺構	1基	貝			
ひじりはら 聖原Ⅱ	集落址	奈良・平安	竪穴住居址	1軒	土師器		奈良・平安集落の一部	
			掘立柱建物址	8棟	砥石			
			土坑	1基				
			溝状遺構	1基				
わくだま 湧玉		縄文	土坑	1基				
			溝状遺構	1基				
しみずだいら 清水平		縄文	土坑	1基				
かみのやしき 上ノ屋敷		縄文	土坑	1基	磨石			

## 御代田町の埋蔵文化財発掘調査報告書

- 第1集 御代田町教育委員会 1975 『馬瀬口下原古墳群』  
第2集 御代田町教育委員会 1985 『野火付遺跡』  
第3集 御代田町教育委員会 1985 『宮平遺跡』 一遺構編一  
第4集 御代田町教育委員会 1986 『大沼遺跡』  
第5集 御代田町教育委員会 1987 『前田遺跡』  
第6集 御代田町教育委員会 1988 『十二遺跡』  
第7集 御代田町教育委員会 1989 『根岸遺跡』  
第8集 御代田町教育委員会 1989 『広畑遺跡』  
第9集 御代田町教育委員会 1990 『聖原II遺跡』  
第10集 御代田町教育委員会 1991 『川原田・城之腰遺跡発掘調査概要報告書』  
第11集 御代田町教育委員会 1992 『城之腰遺跡』  
第12集 御代田町教育委員会 1992 『細田・下弥堂・塚田・下荒田遺跡発掘調査概要報告書』  
第13集 御代田町教育委員会 1993 『川原田遺跡一平安・中世編一』  
第14集 御代田町教育委員会 1993 『細田遺跡』  
第15集 御代田町教育委員会 1993 『滝沢遺跡発掘調査概要報告書』  
第16集 御代田町教育委員会 1993 『西駒込・東二ツ石・湧玉遺跡』  
第17集 御代田町教育委員会 1994 『下弥堂遺跡』  
第18集 御代田町教育委員会 1994 『塚田遺跡』  
第19集 御代田町教育委員会 1994 『前藤部・聖原II・湧玉・清水平・上ノ屋敷遺跡』

---

---

### 前藤部・聖原II・湧玉・清水平・上ノ屋敷遺跡

長野県北佐久郡御代田町内所在遺跡発掘調査報告書

1994年3月25日 発行

編集 御代田町教育委員会  
発行 御代田町教育委員会  
印刷 ほおずき書籍株式会社

---

---